

高田先生の思い出

澤村公認会計士共同事務所 澤 村 廣 一（72期）

高田先生には入学当初から卒業まで大変お世話になりました。入学時に両親との約束で寮にはいることになりました。当時の寮監が高田先生でした。寮の面接で、私の出身高校からは初めての入学である旨申し上げたところ、「君はフロンティアスピリットがある」といわれました。本人は親戚も無いところで、自由な大学生活を楽しみたいと思っていましたので、なにか面映ゆい感じがしたことを覚えています。3月の終わりには寮に入り、先生のお宅に伺いました。奥様と寮の先輩の方にお会いして、寮恒例のストームの情報を伺い、ずいぶん助かりました。

1年生の時はクラス分けがありました。私のクラス担任は高田先生でした。先生は既に存じ上げていましたので、初めての福岡での学生生活をスムーズに始めることができ、ホームシックには無縁な生活を送ることができました。ヨット部に入部したことも、充実したスタートがきれたと理由だと思っています。先生からも体育会にはいるように強く進められていました。その後一時、ヨットを中断せざるを得ないことがありましたが、今でもヨットを続けていますので、貴重なアドバイスをいただいたと感謝しております。

その後寮は1年で出ることになりました。公認会計士の2次試験を受けると決めたからです。高田先生も試験にチャレンジされたこともその時に知りました。先生には簿記の講座も受けました。又、公認会計士と税理士の試験を目指す仲間と同好会として税理研究会を設立した時も、指導教官は高田先生でした。大学でもいろいろな職務をこなされてお忙しい様子でしたが、喜んで引き受けていただきました。

3年のゼミも高田先生です。先生のユニークなゼミの運営で比較的自由的な受験勉強ができました。福岡では受験予備校もない状態でしたので、勝手気ままな受験生活でした。大学祭の前、先生のお宅の前で貧血を起こして倒れました。運良く奥様が在宅で、私に気がついていただき病院に運んでいただきました。盲腸で腹膜炎を起こしていたそうです。奥様のおかげで、手術もスムーズに終わりました。先生からは「運のいい奴だ」と後からも酒の肴にされました。

3年での受験はもちろん失敗でした。秋には銀行に就職も決まりました。受験を志したこともあり、もう一度、試験を受けることにしました。難しいかなと思いましたが、合格することができました。本人は受かるとは思っていませんでしたので、博多で夜のアルバイトをしたりして気ままに生活しておりましたら、「先生がお前を探している」という話を聞き、ご自宅に伺いました。「就職先はもう決めてある」というお話です。監査法人設立第1号の太田哲三事務所（現新日本監査法人）でした。講師をされていた田中先生が参加されている事務所です。奥様にも大変喜んでいただき、公認会計士は高田先生の夢でもあったというお話をお聞きし、お勧めに従い事務所に入りました。九州にいたいと思っていましたが、補修所が九州にはないので東京で勉強しろということで東京事務所に入所ということになりました。

今現在、監査法人は退職し、澤村公認会計士共同事務所を開設しております。何時も流れの変わり目に先生の強いお勧めがありました。今、この様に当然のごとく仕事をしておりますが、先生のアドバイスをなければ全く違った人生だったかもしれません。先生の専門の分野である監査論は、あまり議論したことはありませんが、入学から卒業まで、そして、その後の仕事にまでご指導いただいたことを有り難く感謝しております。先生の召天10周年記念誌の寄稿が先生との個人的な思い出となりました。先生は多くの学生たちに同じような気持ちで接しておられたと思います。そういう先生だと思います。

難 関 突 破 公 認 会 計 士 第2次試験合格

商学部4年 沢 村 広 一 君



公認会計士といえは、会計学を学ぶ者にとつては、是非とも得た資格です。本学商学部四年の沢村広一君が、その第二次試験に合格しました。本学から第二次試験に現役で合格したのは、沢村君が最初だということです。沢村君は現在、税理研究会に属しています。この研究会は、公認会計士や

税理士を志す者の集りです。試験の内容は、簿記・原価計算・財務諸表論・会計監査論・経営学・経済学・商法。かなり専門的で、程度は司法試験に匹敵するといわれています。第二次試験受験のためには、実務補習一年と業務補助二年を経験することが要求されています。

沢村君のセミナー担当、高田駒次郎先生は「本学から初めて第二次試験に合格しました。他の学生諸君も頑張ってください。」と喜びもひとしおのようでした。

西南学院大学広報第18号（昭和46年11月8日）